北杜市

日本脳炎ワクチン予防接種を受ける前に

1　病気の説明

日本脳炎は、日本脳炎ウイルスの感染により起こる病気です。ヒトから直接ではなく、ブタ等の体内で増えたウイルスが、蚊によって媒介され、蚊に刺されたヒトが感染します。

6～16日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれん等の症状を示す急性脳炎になります。

ウイルスは、北海道等の一部を除く国内全体に分布しており、流行は西日本地域が中心です。ヒトからヒトへの感染はありませんが、飼育されているブタにおける日本脳炎の流行が、毎年6月から10月まで続きます。この期間に、地域によっては約80%以上のブタが感染しています。

以前は小児や学童に発生していましたが、予防接種等の普及で改善し、最近では予防接種を受けていない高齢者を中心に患者が発生しています。

感染者のうち、およそ1，000人に1人が日本脳炎を発症します。脳炎のほか髄膜炎や夏かぜのような症状で終わる方もいます。脳炎にかかった時の死亡率は約20～40%ですが、神経の後遺症を残す場合が多くあります。

2　ワクチンの説明

乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンは、ベロ細胞という細胞でウイルスを増殖させ、ホルマリンなどでウイルスを殺し(不活化)、精製したものです。

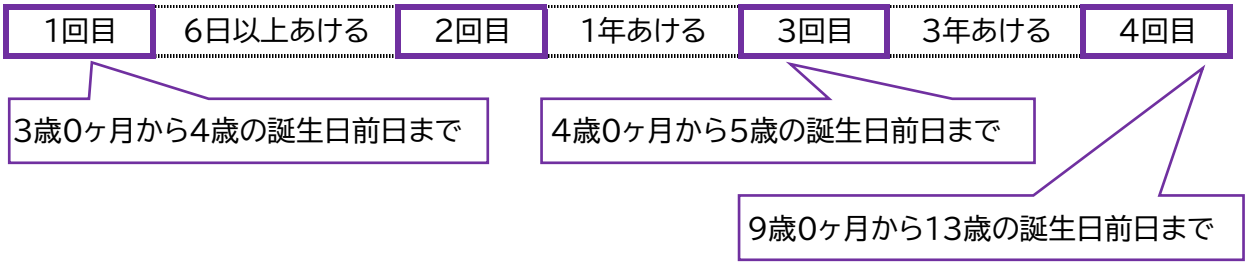
●副反応

○主な副反応に、発疹、発熱、せき、鼻水、注射した部位の発赤(赤み)、腫れ(腫脹)がみられます。
○重篤な副反応として極めて稀に、ショック、アナフィラキシー様症状、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)、脳症、けいれん、急性血小板減少性紫斑病等がみられます。

●急性散在性脳脊髄炎(ADEM)について

ADEMは、神経系の病気を引き起こします。ワクチン接種後、通常数日から数週間程度で、発熱、頭痛、けいれん、運動障害等の症状が出ます。ステロイド剤などの治療により、多くは正常に回復しますが、運動障害や脳波異常等の神経系の後遺症が10%程度あると言われています。

●接種の標準的な時期　　初回接種＝2、追加接種＝1回、二期接種＝1回、合計4回接種する

3歳から4歳の誕生日前日までの間に1回目を接種します。1回目と2回目の間は6日以上の間隔をあけて2回目を接種します。

4歳から5歳の誕生日前日までの間に3回目を接種します。9歳から13歳の誕生日前日までの間に4回目を接種します。